

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	循環病態科学領域 循環病態内科学・教育研究分野 氏名 濱舘 美里
指導教授氏名	富田 泰史
論文審査担当者	主 査 花田 裕之 副 査 皆川 正仁 副 査 大門 眞
(論文題目) Prognostic Impact of Diabetes Mellitus on Clinical Outcomes in Lean Patients with Acute Myocardial Infarction (体重別にみた急性心筋梗塞患者の臨床転帰における糖尿病の影響)	
(論文審査の要旨) 急性心筋梗塞 (AMI) を含む心血管疾患患者において、低体重患者は肥満患者と比較し、臨床転帰が不良とする報告がある。本研究では BMI で層別化した AMI 患者の長期予後を検討するとともに、これに糖尿病が影響するのかを検討した。弘前大学医学部附属病院に入院した AMI 患者連続 1,282 例を後方視的に検討した。入院時 Body Mass Index (BMI) により低体重群 (BMI 18.5 kg/m ² 未満、n=61) と非低体重群 (BMI 18.5 kg/m ² 以上、n=1,221) に分類し、全死亡と副次評価項目として、主要心血管イベント (MACCE) について検討した。中央値 3.8 年の追跡で全死亡と MACCE 発生率はいずれも低体重群で有意に多いことが示された (全死亡 : 51% vs 18%、MACCE : 36% vs 18%)。MACCE のうち、心血管死および心不全による再入院の頻度は低体重群で有意に多かった (心血管死 : 21% vs 9%、心不全による再入院 : 15% vs 7%)。糖尿病の影響を検討すると、非低体重群において糖尿病合併例は、非糖尿病合併例と比較して MACCE の発生が有意に多かったのに対して、低体重群では、糖尿病合併の有無で MACCE 発生率に有意差を認めなかった。年齢・性別・糖尿病・脂質異常症・高血圧を調整因子としての多変量解析の結果、年齢と糖尿病は臨床転帰と関係することが示された。年齢は体重を問わず有意な危険因子であったが、糖尿病は非低体重群でのみ全死亡および MACCE の独立した危険因子であり、低体重群では糖尿病と臨床転帰との関連は認められなかった。 本研究は AMI 患者の予後について新知見を示したものであり、AMI 発症後の患者予後を改善させる患者管理や治療にも結び付く可能性があり、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	In Vivo 36: 1383-1390 (2022) doi:1021873/invivo.12842

※論文題目が英文の場合は () 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～～「学位授与に値する。」と記入する。